

下地町与那覇湾一帯の鳥類相

久貝 勝盛 (沖縄県立博物館)

Birds at the Bay of Yonaha, Shimoji Town Miyako Island, Okinawa

Katsumori Kugai
(Okinawa Prefectural Museum)

はじめに

これまで与那覇湾の鳥に関しては久貝 (1979a, 1981b) の断片的な報告があるだけである。今回、既存の資料と宮古野鳥の会の調査資料、それに筆者が1980年から1995年にかけて調査したデータをもとに与那覇湾一帯の鳥類相をまとめた。

調査地及び調査地概要

与那覇湾は宮古島の平良市久松から下地町川満、上地、与那覇部落にまたがる広大な潮間帯である。沖縄でもっとも潮が引くのは1月の大潮の時であり、水位がもっとも高くなるのは9月の大潮の時である。その時の水位をそれぞれ大潮最低干潮線、大潮最高満潮線という。この2つの線間の区域が潮間帯である (1991, 土屋他)。潮間帯はその基質により岩礁、転石、砂、砂泥、泥等に分けられる。与那覇湾では岩礁、泥質、砂泥質、砂質等そのすべてのタイプの潮間帯を見る事が出来る。

久松から川満部落にかけては岩礁、咲田川が流れ込む一帯は泥質、西浜崎あたりは砂質である。かつて上地から与那覇部落にかけては砂泥質でマングローブ (メヒルギ、オヒルギ、ヒルギダマシ) が林を作っていたが現在は広大な埋立工事のため消滅した。しかし与那覇部落の奥まった所にメヒルギの芽生えが数十本見られる。これは救いである。

マングローブの林は魚貝類の産卵場であり、落下したマングローブの葉や枝の分解によって生ずる有機物は与那覇湾全体の生物相に栄養分を供給している。また、昆虫や鳥類の生活空間を空中にまで広げている。まさにマングローブ林は生命を支える原点なのである。

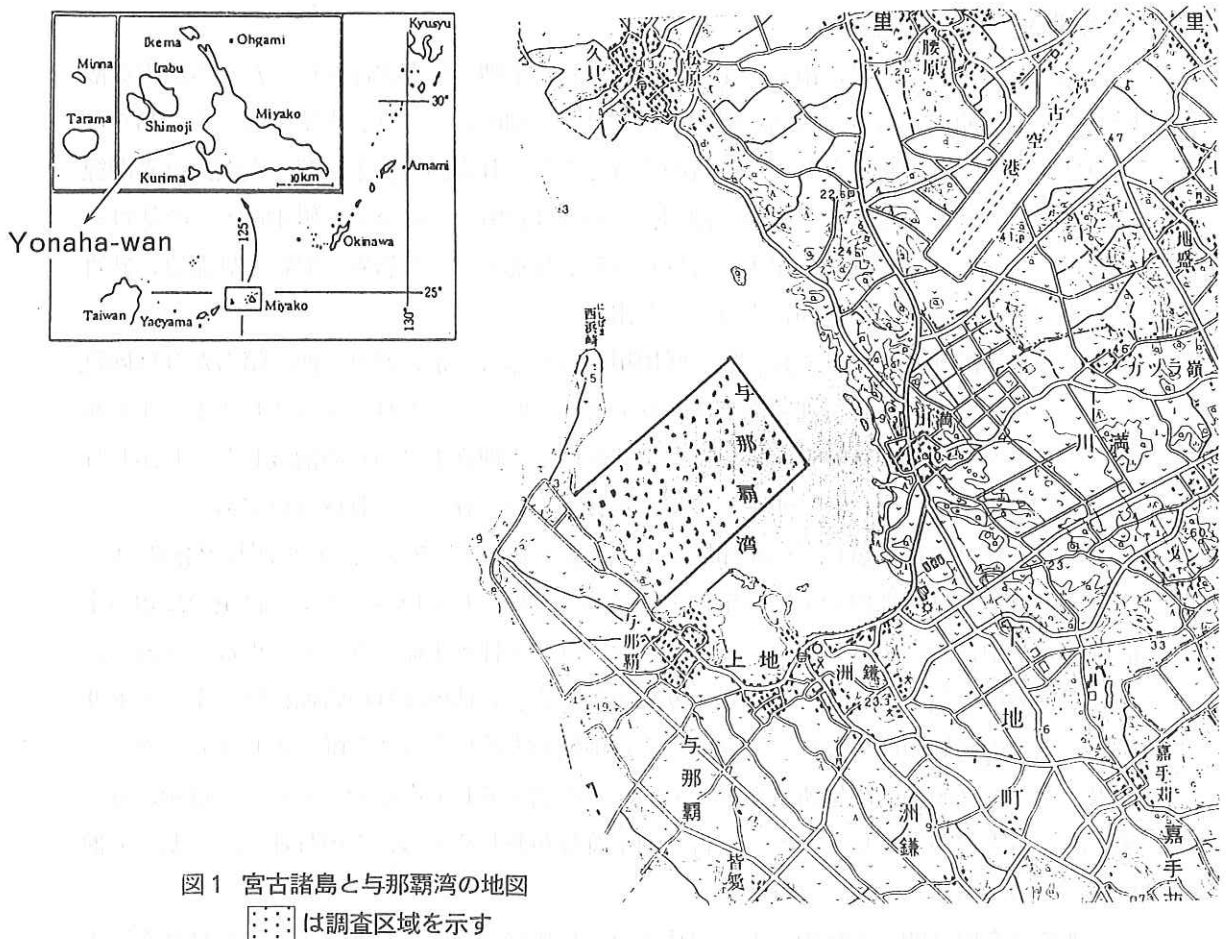
与那覇湾は魚類、多毛類、貧毛類、カニ類が多く、春秋の渡りの時期にはシギ、チドリ類、サギ類の絶好の餌場になっている。また地域の人達にとっても唯一のレクリエーションの場、タンパク源補給の場所にもなっている。年間を通して海草類、エビ類、魚類、カニ類等を採る人達が多く見られる。宮古で潮干狩りが楽しめるのはこの与那覇湾において他にはないのである。

与那覇湾を取り囲む植物相も大変興味深い。与那覇部落にあるトマイ御嶽では高木層としてモモタマナ、タブノキ、ヤブニッケイ、ガジュマル、オオバギ、センダン、アカテツ、ビロウ、フクギ、クロヨナ、アコウ、クワノハエノキ、低木層としてクロツグ、モクタチ

バナ、グミ、クワズイモ、オオタニワタリ、オオゴンカズラ、フウトウカズラ、ハブカズラ等が見られ、この地域では留鳥としてメジロ、ヒヨドリ、キジバト、夏鳥としてサンコウチョウ、冬鳥としてシロハラ、ウグイス等、林の鳥類が存分に楽しめる。

調査方法

個体数、種類数に関しては図1のように100m×150mの方形区をセットし、原則としてそこでカウントされたものだけに限定した。鳥のリストに関しては与那覇湾一帯でみられたものをすべて取り入れた。



調査結果と考察

1 与那覇湾の鳥類相

これまで記録された鳥類は33科128種である。その内訳は陸鳥46種（留鳥5種、渡り鳥41種）水鳥82種（留鳥5種、渡り鳥77種）である。水鳥の中で一番種類数の多いのがシギ科で28種類（キョウジョシギ、トウネン、ヒバリシギ、ウズラシギ、ハマシギ、サルハマシギ、コオバシギ、オバシギ、ミュビシギ、ヘラシギ、エリマキシギ、キリアイ、ツルシギ、アカアシシギ、コアアシシギ、アオアシシギ、クサシギ、タカブシギ、キアシシギ、イソシギ、ソリハシシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ、コシャクシギ、タシギ）、その次がサギ科で11種類（リュウキュウヨシゴイ、ゴイサギ、ササゴイ、アカガシラサギ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、クロサギ、アオサギ、ムラサキサギ）、以下チドリ科10種類（コチドリ、イカルチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、オオメダイチドリ、オオチドリ、ムナグロ、ダイゼン、ケリ、タゲリ）、カモメ科9種類（ユリカモメ、ウミネコ、ハジロクロハラアジサシ、クロハラアジサシ、オニアジサシ、ベニアジサシ、エリグロアジサシ、コアジサシ、クロアジサシ）、ガンカモ科6種類（ハイイロガン、マガモ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、キンクロハジロ）、クイナ科4種類（オオクイナ、ヒクイナ、バン、オオバン）の順になる。

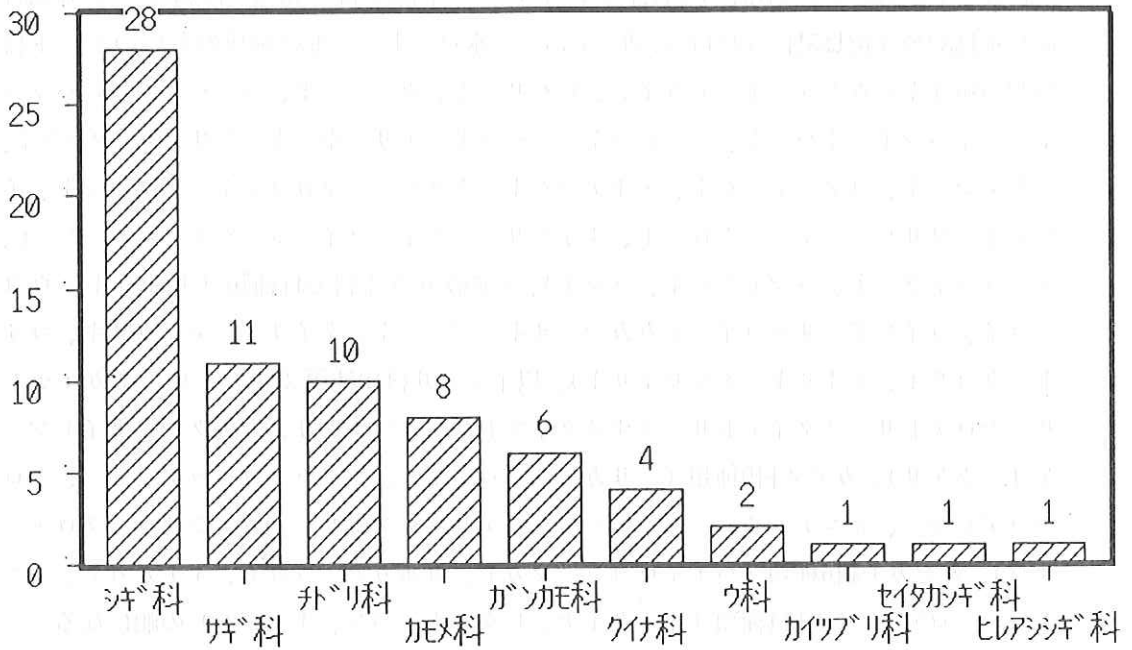
この事からすると与那覇湾は冬鳥、旅鳥型でしかもシギ・チドリ類、サギ類を中心にした鳥相であるという事がいえる。

1993年6月、水辺環境を保護するためのラムサール条約会議が極東アジアで初めて北海道釧路で開かれた。この会議の目的はアジア諸国の条約への加盟促進と登録湿地の拡大を図るというものだった。今、世界的規模でマングローブ湿地や干潟を守ろうという運動が静かに起こっている。この与那覇湾も大事にしたい水辺環境の一つである。



写真1 与那覇湾

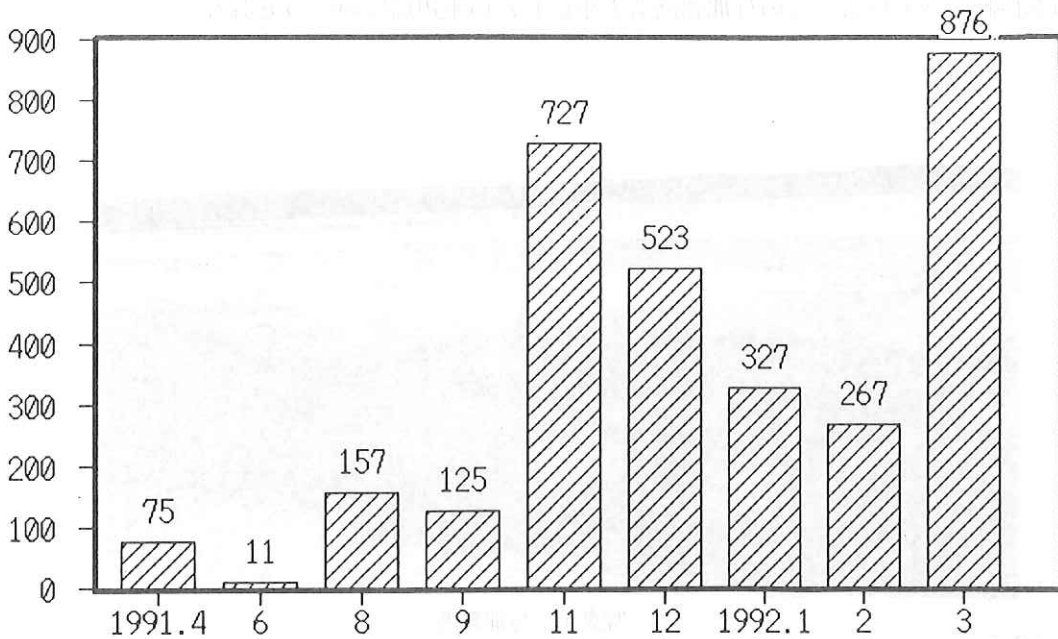
1) 与那覇湾で見られる水鳥の種類数 (1980~1995) (図2)



2) 与那覇湾で見られるシギ・チドリ類の個体数変動 (図3)

図1に示した100m×150mの方形区の中で出現した個体数。

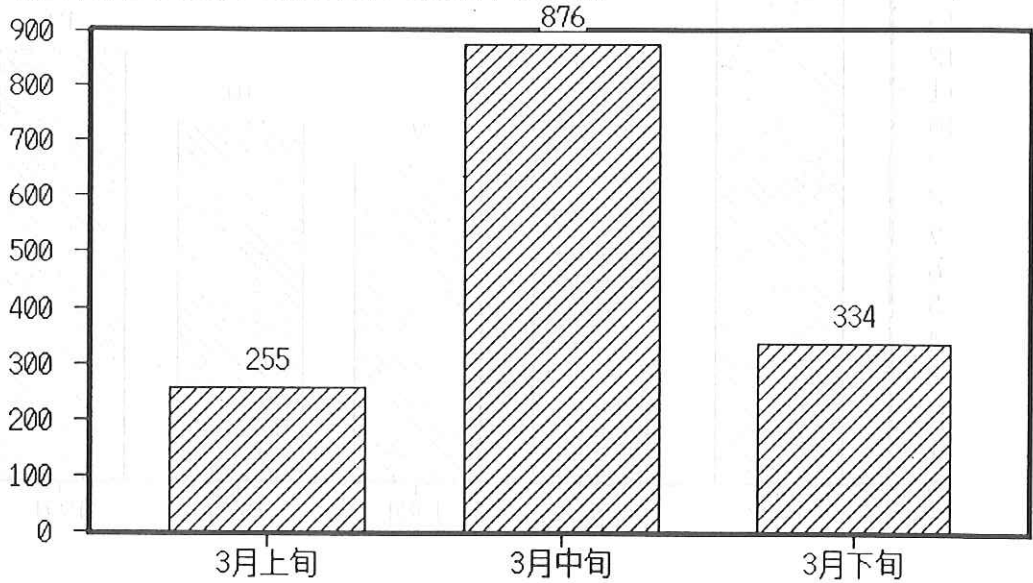
調査年月日：1991年4月29日、6月16日、8月27日、9月15日、11月17日、12月31日、
1992年1月5日、2月23日、3月15日



3) 3月の渡り状況 (図4)

春の渡りは3月中旬にピークになる。

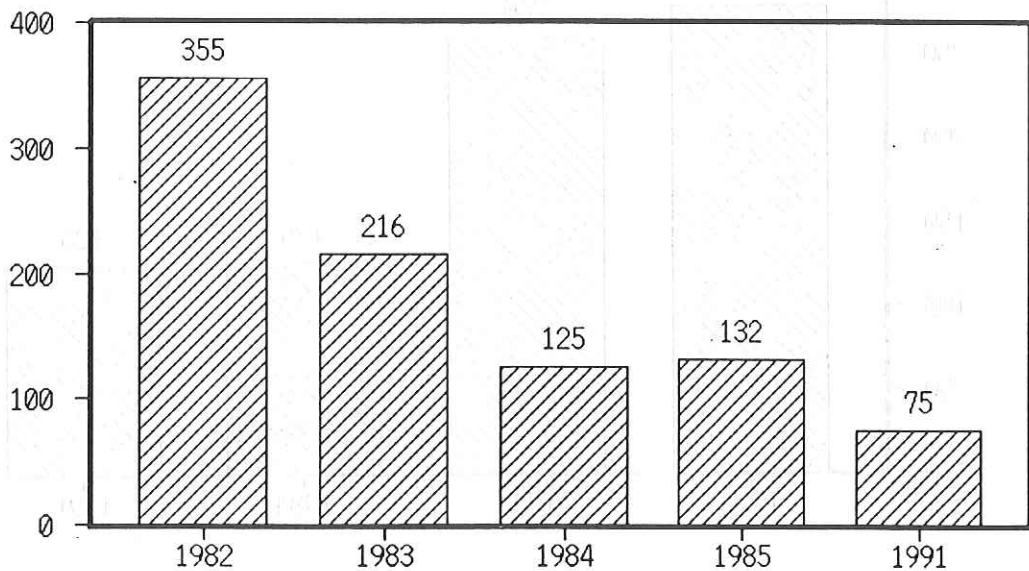
調査年月日：1992年3月8日、3月15日、3月20日



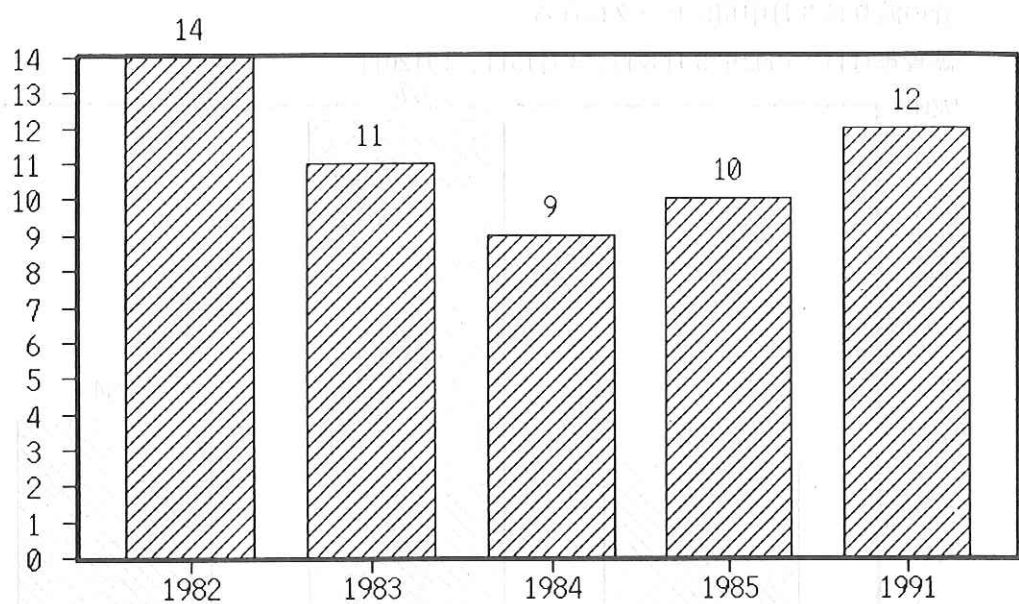
4) 春のシギ・チドリ全国一斉調査結果

調査年月日：1982年4月29日、1983年4月29日、1984年4月29日、1985年4月29日、
1991年4月29日

(1) 個体数変動 (図5)



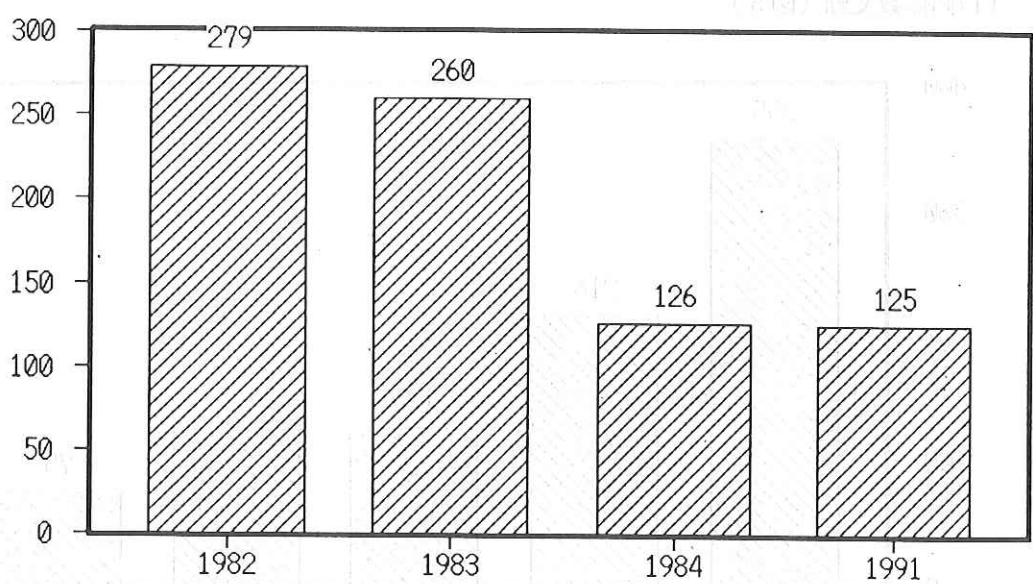
(2)種類数変動 (図6)



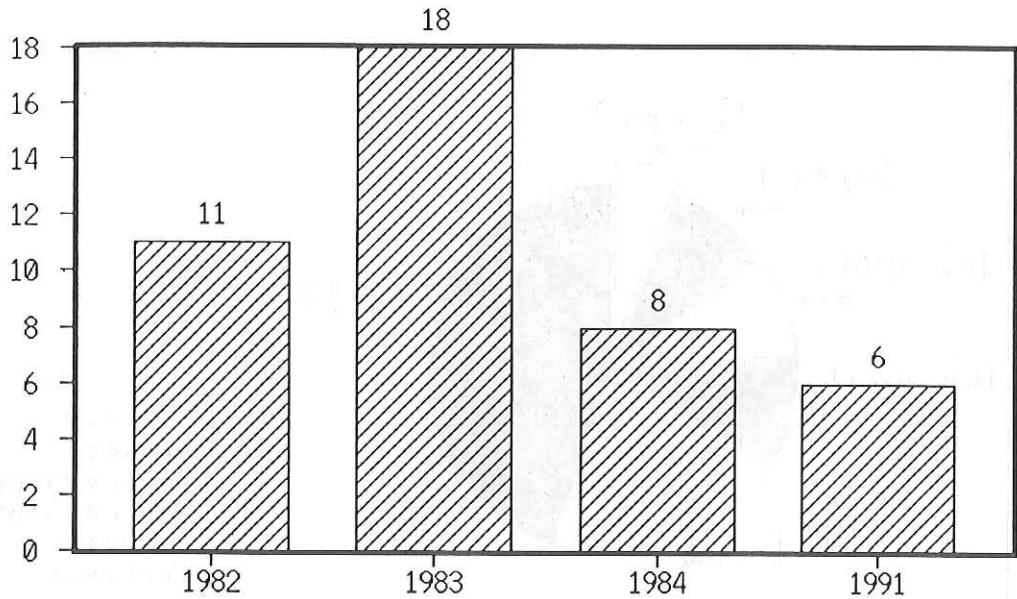
5) 秋のシギ・チドリ全国一斉調査結果

調査年月日：1982年9月15日、1983年9月15日、1984年9月15日、1991年9月15日

(1)個体数変動 (図7)



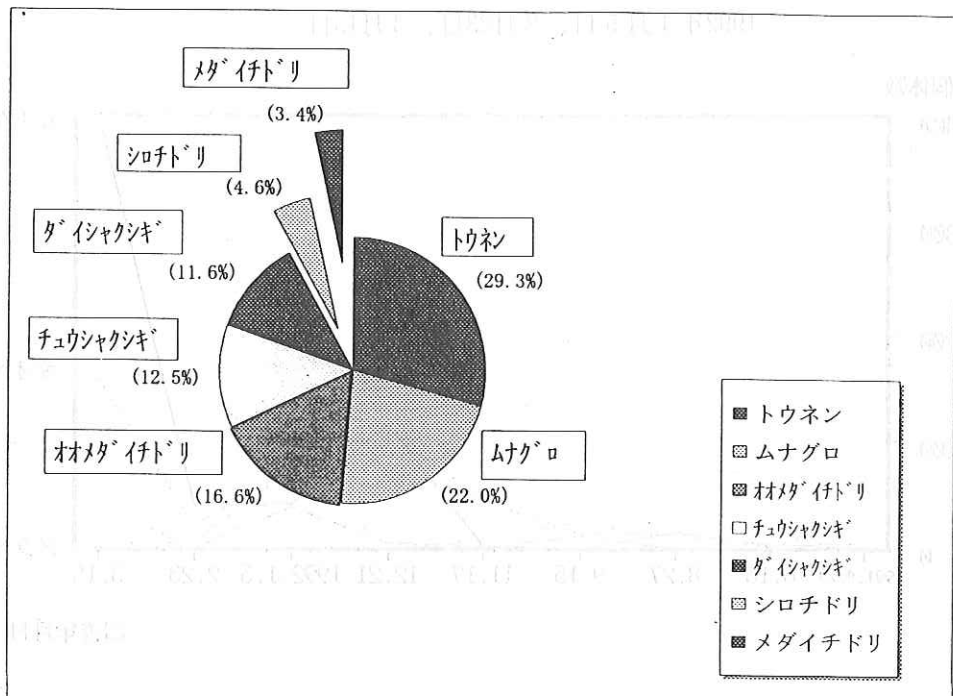
(2)種類数変動 (図8)



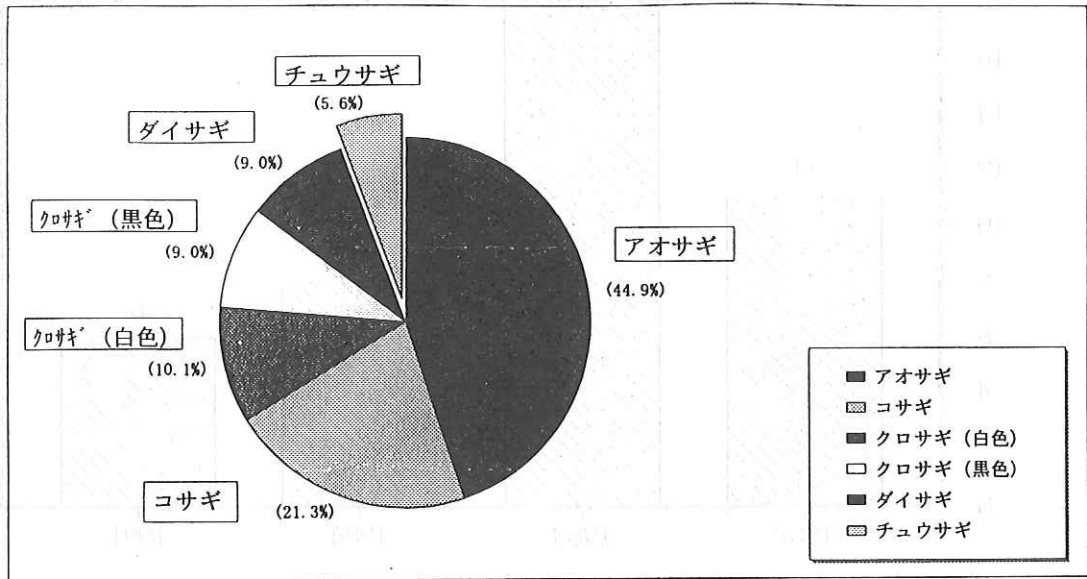
6) 与那覇湾で見られるシギ・チドリ類、サギ類の出現比率

調査年月日：1991年4月29日、6月16日、8月27日、9月15日、11月17日、12月21日、
1992年1月5日、2月23日、3月15日

(1)シギ・チドリ類 (図9)

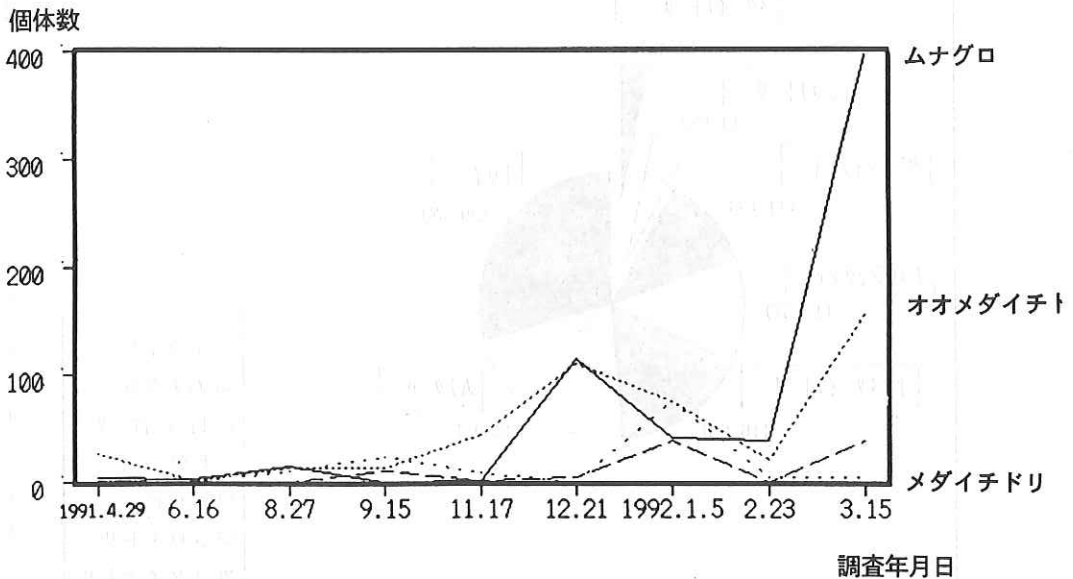


(2)サギ類 (図10)



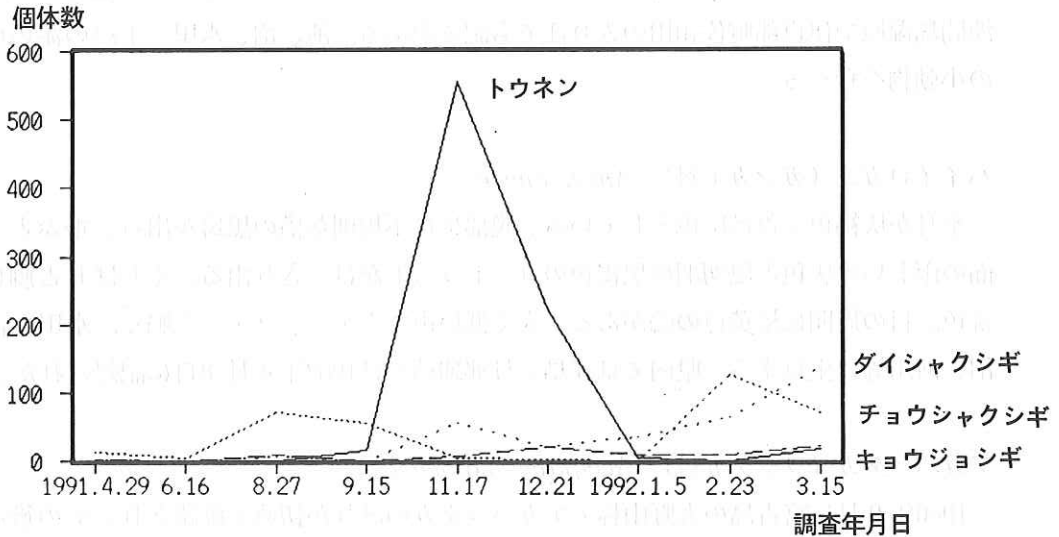
7) チドリ類出現率上位4種類 (ムナグロ、オオメダイチドリ、シロチドリ、メダイチドリ) の個体数変動 (図11)

調査年月日 : 1991年 4月29日、6月16日、8月27日、9月15日、11月17日、12月21日、
1992年 1月5日、2月23日、3月15日



8) シギ類出現率上位4種類(トウネン、チュウシャクシギ、ダイシャクシギ、キョウジョシギ)の個体数変動(図12)

調査年月日: 1991年4月29日、6月16日、8月27日、9月15日、11月17日、12月21日、1992年1月5日、2月23日、3月15日



2. 分布的に興味深い鳥類の記録

カワウ (ウ科) *Phalacrocorax carbo*

頭と尾は黒っぽく背中は黒褐色。顔は黄色く、その外側は白色。飛翔時は翼の位置が体の中央部にある。大きな河川に生息する。県内での観察例は少ない。冬鳥、または迷鳥。宮古では伊良部島と池間島でも記録されている。

アカガシラサギ (サギ科) *Ardeola bacchus*

中国南部で繁殖し、冬期にはインドシナ半島あたりへ移動する。夏羽では頭と首が赤味がかかる。背中は灰色である。冬羽は頭と首に黄褐色の縦斑が点在する。背中は暗灰褐色。くちばしの先端部は黒色で基部は黄色、水田、沼、草地等で両生類、魚類を採る。県内では迷鳥である。与那覇湾では1980年10月22日に記録された。

ヘラサギ (トキ科) *Platalea leucorodia*

体全体が白色で目先に細い黒線がある。くちばしはヘラ状で黒色をしており、先端部は黄色。若鳥はくちばしが肉色で翼の先が灰黒色。首を左右に振りながら泥の中の小動物を食べる。沼地、水田、干潟等の水辺に生息する。県内では迷鳥。与那覇湾では1976年12月5日に記録された。伊良部島でも1976年12月10日に記録されている。

クロツラヘラサギ (トキ科) *Platalea minor*

朝鮮半島と中国の一部に分布する。全身白色でくちばしと脚が黒い。くちばしは名前が示す通りヘラ状である。個体数は極めて少ない。県内でも迷鳥として時々、豊見城村慢湖に姿を見せる。与那覇湾では1979年12月28日と1995年11月25日に記録された。池間島湿原や伊良部町佐和田の入り江でも記録がある。池、沼、水田、干潟の泥の中の小動物を食べる。

ハイイロガン (ガンカモ科) *Anser anser*

全身が灰褐色で首は灰色をしている。腹部には不規則な横の黒斑が出る。飛ぶと上面の雨おいの灰色と風切羽の黒褐色のコントラストがはっきり出る。くちばしと脚は桃色。目の周囲に橙黄色の輪がある。太く低い声でグエン、グエンと鳴く。水田、湖沼、河川等に生息する。県内では迷鳥。与那覇湾では1982年4月28日に記録された。

アカハラダカ (ワシタカ科) *Accipiter soloensis*

1980年9月に宮古島の大野山林でアカハラダカの渡りが初めて確認され、その後の調査で白露の頃の9月15日前後にサシバと同じくらいの規模で渡るという事がわかった。成鳥は胸が赤っぽく、飛翔中の初列風切り羽は黒い。渡りの頃になると与那覇湾周辺のモクマオ林でも見られる。宮古で一泊する。朝の飛び立ちは7:30~8:30頃である。

チゴハヤブサ (ハヤブサ科) *Falco subbuteo*

ユーラシア大陸中央部から北部へかけて繁殖する。頭、背、翼の上面は灰黒色で成鳥では胸から腹にかけて黒褐色の縦斑がある。また、すねから下尾筒にかけては赤褐色である。小鳥類を襲って食べる。宮古諸島で渡りの時期に最初に姿を見せるのが、このチゴハヤブサである。個体数は極めて少ない。

オオチドリ (チドリ科) *Charadrius veredus*

くちばしは黒色で脚は橙黄色。冬羽は体の下面が淡い褐色である。夏羽では顔が白くなり、胸に赤褐色と黒色の幅広い帯ができる。県内では迷鳥。与那覇湾では1981年9月4日に記録された。草地や畑等で見られる。

タゲリ (チドリ科) *Vanellus vanellus*

頭に長い冠羽がある。背中、翼の上面は金属光沢のある緑黒色。下面は白色で首の

所に幅広い黒帯がある。水田、湿地、池沼、河川等でみられる。県内では冬鳥。宮古では観察例の少ない珍鳥。

ホウロクシギ (シギ科) *Numenius mandagascariensis*

日本で見られるシギの仲間では最も大きい。くちばしが長く下に湾曲している。体は黄色がかった淡褐色、海岸や河口の広い干潟で生息する。宮古では観察例の少ない旅鳥。

コシャクシギ (シギ科) *Numenius minutus*

全体が黄褐色である。風切羽と背中に黒色の斑点がある。くちばしはチュウシャクシギよりずっと短く、やや下に曲がっている。脚は黒っぽい。草地や畑で生息する。県内でも宮古でも迷鳥。

セイタカシギ (セイタカシギ科) *Himantopus himantopus*

細長いピンクの脚と白い下面が特徴である。水辺のバレリーナとも言われる。くちばしはまっすぐで細長い。体の上面は緑色光沢のある黒色。宮古では旅鳥または迷鳥である。

ハジロクロハラアジサシ (カモメ科) *Chlidonias leucopterus*

夏鳥は頭から背中、腹部にかけて黒色。腰と尾羽は白色。くちばしと脚は暗赤色。冬羽は全体が白色で目の後方と頭に黒斑がある。くちばしは黒くなる。干潟、池、水田等で生息する。宮古では旅鳥または迷鳥。

クロハラアジサシ (カモメ科) *Chlidonias hybrida*

夏羽では頭頂部、背、腹は黒色。くちばしと脚は暗赤色。冬羽では下面が白く、全体的に白っぽく見える。目から後頭部にかけて黒斑がでる。くちばしも黒くなる。宮古では迷鳥または旅鳥。

オニアジサシ (カモメ科) *Hydroprogne caspia*

体は白色で初列風切りは灰黒色である。くちばしは橙赤色で、太くて長い。脚は黒色。干潟、湖沼等で生息する。本土でもごく希な旅鳥である。与那覇湾では迷鳥として1975年1月に記録された。

ブッポウソウ (ブッポウソウ科) *Eurystomus orientalis*

頭は黒色でのどは青藍色、体は青色がかった緑色、初列風切に青白色の斑がある。くちばしと脚は赤色。1988年9月15日に咲田川下流と嘉手刈入り江で記録された。宮古では迷鳥。

ハシブトガラス (カラス科) *Corvus macrorhynchos*

宮古諸島で見られるカラスは亜種のリュウキュウハシブトガラスである。1960年頃まではいたる所でみられたが、今は伊良部島だけにしか生息していない。人間活動の拡大に伴ってカラスの生息環境がなくなってしまったのだろうか。

List of the Birds at the Bay of Yonaha, Yonaha Town

与那覇湾一帯の鳥類目録

カイツブリ科 PODICIPITIDAE

1. カイツブリ *Podiceps ruficollis*

ウ科 PHALACROCORACIDAE

2. カワウ *Phalacrocorax carbo*
3. ウミウ *Phalacrocorax filamentosus*

サギ科 ARDEIDAE

4. リュウキュウヨシゴイ *Ixobrychus cinnamomeus*
5. ゴイサギ *Nycticorax nycticorax*
6. ササゴイ *Butorides striatus*
7. アカガシラサギ *Ardeola bacchus* (1980.10.22)
8. アマサギ *Bubulcus ibis*
9. ダイサギ *Egretta alba*
10. チュウサギ *Egretta intermedia*
11. コサギ *Egretta garzetta*
12. クロサギ *Egretta sacra*
13. アオサギ *Ardea cinerea*
14. ムラサキサギ *Ardear purpurea*

トキ科 THRESKIORNITHIDAE

15. ヘラサギ *Platalea leucorodia* (1976.12.5)

16. クロツラヘラサギ *Platalea minor* (1979.12.28)

ガンカモ科 ANATIDAE

17. ハイイロガン *Anser anser*(1982.4.28)

18. マガモ *Anas platyrhynchos*

19. カルガモ *Anas poecilorhyncha*

20. コガモ *Anas crecca*

21. オナガガモ *Anas acuta*

22. キンクロハジロ *Aythya fuligula*

ワシタカ科 ACCIPITRIDAE

23. ミサゴ *Pandion haliaetus*

24. アカハラダカ *Accipiter soloensis*

25. ツミ *Accipiter gularis*

26. ノスリ *Butea butea*

27. サシバ *Butastur indicus*

ハヤブサ科 FALCONIDAE

28. ハヤブサ *Falco peregrinus*

29. チゴハヤブサ *Falco subbuteo*

30. チョウゲンボウ *Falco tinnunculus*

ミフウズラ科 TURNICIDAE

31. ミフウズラ *Turnix suscitator*

クイナ科 RALLIDAE

32. オオクイナ *Rallina eurizonoides*

33. ヒクイナ *Porzana fusca*

34. バン *Gallinula chloropus*

35. オオバン *Fulica atra*

チドリ科 CHARADRIIDAE

36. コチドリ *Charadrius dubius*
37. イカルチドリ *Charadrius placidus*
38. シロチドリ *Charadrius alexandrinus*
39. メダイチドリ *Charadrius mongolus*
40. オオメダイチドリ *Charadrius leschenaultii*
41. オオチドリ *Charadrius asiaticus* (1981.9.4)
42. ムナグロ *Pluvialis dominica*
43. ダイゼン *Pluvialis squatarola*
44. ケリ *Microsarcops cinereus*
45. タゲリ *Vanellus vanellus*

シギ科 SCOLOPACIDAE

46. キョウジヨシギ *Arenaria interpres*
47. トウネン *Calidris ruficollis*
48. ヒバリシギ *Calidris minutilla*
49. ウズラシギ *Calidris acuminata*
50. ハマシギ *Calidris alpina*
51. サルハマシギ *Calidris ferruginea*
52. コオバシギ *Calidris canutus*
53. オバシギ *Calidris tenuirostris*
54. ミュビシギ *Crocethia alba*
55. ヘラシギ *Eurynorhynchus pygmenus*
56. エリマキシギ *Philomachus pugnax*
57. キリアイ *Limicola falcinellus*
58. ツルシギ *Tringa erythropus*
59. アカアシシギ *Tringa totanus*
60. コアオアシシギ *Tringa stagnatilis*
61. アオアシシギ *Tringa nebularia*
62. クサシギ *Tringa ochropus*
63. タカブシギ *Tringa glareola*
64. キアシシギ *Tringa brevipes*
65. イソシギ *Tringa hypoleucos*
66. ソリハシシギ *Xenus cinereus*

67. オグロシギ *Limosa limosa*
68. オオソリハシシギ *Limosa lapponica*
69. ダイシャクシギ *Numenius arquata*
70. ホウロクシギ *Numenius madagascariensis*
71. チュウシャクシギ *Numenius phaeopus*
72. コシャクシギ *Numenius minutus*
73. タシギ *Gallinago gallinago*

セイタカシギ科 RECURVIROSTRIDAE

74. セイタカシギ *Himantopus himantopus*

ヒレアシシギ科 PHALAROPODIDAE

75. アカエリヒレアシシギ *Phalaropus lobatus* (1980.11.1)

ツバメチドリ科 GLAREOLIDAE

76. ツバメチドリ *Galeolar maldivarum*

カモメ科 LARIDAE

77. ユリカモメ *Larus ridibundus*
78. ウミネコ *Larus crassirostris*
79. ハジロクロハラアジサシ *Sterna leucoptera*
80. クロハラアジサシ *Sterna hybrida*
81. オニアジサシ *Hydroprogne caspia*
82. ベニアジサシ *Sterna dougallii*
83. エリグロアジサシ *Sterna sumatrana*
84. コアジサシ *Sterna albifrons*
85. クロアジサシ *Anous stolidus*

ハト科 COLUMBIDAE

86. キジバト *Streptopelia orientalis*
87. ズアカアオバト *Sphenurus formosae*

ホトトギス科 CUCULIDAE

88. ホトトギス *Cuculus poliocephalus*

フクロウ科 STRIGIDAE

89. コミミズク *Asio flammeus*

90. コノハズク *Otus scops*

91. アオバズク *Ninox scutulata*

ヨタカ科 CAPRIMULGIDAE

92. ヨタカ *Caprimulgus indicus*

アマツバメ科 APODIDAE

93. ハリオアマツバメ *Chaetura caudacuta*

94. ヒメアマツバメ *Apus affinis*

95. アマツバメ *Apus pacificus*

カワセミ科 ALCEDINIDAE

96. アカショウビン *Halcyon coromanda*

97. カワセミ *Alcedo atthis*

ブッポウソウ科 CORACIDAE

98. ブッポウソウ *Eurystomus orientalis*

ツバメ科 HIRUNDINIDAE

99. ショウドウツバメ *Riparia riparia*

100. ツバメ *Hirundo rustica*

101. リュウキュウツバメ *Hirundo tahitica*

102. コシアカツバメ *Hirundo daurica*

103. イワツバメ *Delichon urbica*

セキレイ科 MOTACILLIDAE

104. イワミセキレイ *Dendronanthus indicus* (1991.9.20)

105. ツメナガセキレイ *Motacilla flava*

106. キセキレイ *Motacilla cinerea*

107. ハクセキレイ *Motacilla alba*

108. マミジロタヒバリ *Anthus novaeseelandiae*

ヒヨドリ科 PYCNONOTIDAE

109. ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*

モズ科 LANIIDAE

110. モズ *Lanius tigrinus*

111. アカモズ *Lanius cristatus*

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

112. イソヒヨドリ *Monticola solitarius*

113. トラツグミ *Turdus dauma*

114. アカハラ *Turdus chrysolaus*

115. シロハラ *Turdus pallidus*

116. ツグミ *Turdus naumanni*

117. ウグイス *Cettia diphone*

118. メボソムシクイ *Phylloscopus borealis*

119. セッカ *Cisticola juncidis*

120. エゾビタキ *Muscicapa griseisticta*

121. サンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata*

メジロ科 ZOSTEROPIDAE

122. メジロ *Zosterops japonica*

ホオジロ科 EMBERIZIDAE

123. クロジ *Emberiza variabilis*

アトリ科 FRINGILLIDAE

124. アトリ *Fringilla montifringilla*

ハタオリドリ科 PLOCEIDAE

125. スズメ *Passer montanus*

ムクドリ科 STURNIDAE

126. コムクドリ *Sturnus philippensis*

127. ムクドリ *Sturnus cineraceus*

カラス科 CORVIDAE

128. ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos*

謝 辞

本稿の作成にあたっては宮古野鳥の会の与那覇湾シギ・チドリ類調査資料を使用させてもらった。心から感謝したい。

SUMMARY

1. The author has examined about the birds at the bay of Yonaha from 1980 to 1995 (including examination of the literature).
2. 33 families and 128 species were recorded.
3. 10 species were residents and 118 species were passage migrants.
4. The most water birds were as following order: Scolopacidae, Ardeidae, Chararidae, Laridae, Anatidae, Rallidae, Phalacrocoracidae, Podicipitidae, Recurvirostridae and Phalaropodidae.
5. Scolopacidae were 28 species, Ardeidae, 11 species, Chararidae, 10 species, Laridae, 9 species, Anatidae, 6 species, Rallidae, 4 species, Phalacrocoracidae, 2 species, Podicipitidae, 1 species, Recurvirostridae 1 specie and Phalaropodidae, 1 species.
6. We had peak number of individuals in migration on march and november, according to the result of the examination from april, 1991 to march, 1992.
7. The peak in spring migration was in the middle of march.
8. According to the national spring migratory examination from 1982 to 1985 and april 29th, 1991, mean number of species were 11 and mean number of individuals, 181.
9. According to the national autumnal migratory examination from 1982 to 1984 and september 15th, 1991, mean number of species were 11 and mean number of individuals, 198.

10. According to the result of the examination from april, 1991 to march, 1992 the most 4 species of sandpipers and plovers at the Bay of Yonaha were *Calidris ruficollis*, *Pluvialis dominica*, *Charadrius leschenaultii* and *Numenius phaeopus*.
11. According to the result of the examination from april, 1991 to march, 1992 the most 4 species of egrets at the Bay of Yonaha were *Ardea cinerea*, *Egretta gazetta*, *Egretta sacra* (white type) and *Egretta sacra* (black type).
12. The bay of the Yonaha is the best relay station and wintering place for the migratory water birds.

参考文献

池原貞雄監修 1991 いらぶの自然

沖縄野鳥研究会 1993 沖縄県の野鳥 沖縄出版

Katsumori Kugai 1977 The Birds of the Miyako Islands 沖生教研会誌第10号

久貝勝盛・山本晃 1981 宮古群島の鳥類目録 沖生教研会誌 第14号 PP15~29

久貝勝盛 1995 池間島の鳥 平良市総合博物館紀要 第2号 PP79~86

平良市教育委員会 1979 郷土の自然 PP102

日本鳥類保護連盟 1992 鳥630図鑑 日新印刷株式会社

Wild Bird Society of Japan 1982 A field guide to the Birds of Japan